

《ミャンマー》経済・産業関連閣僚のプロフィール 通信・エネルギー・電力・鉱工業など各省のトップたち

■国家計画・経済開発相

Minister for National Planning and Economic Development

カン・ゾー(博士) Dr Kan Zaw



現職(国家計画・経済開発相)は日本の経済産業大臣のカウンターパートに当たる。2012年9月に実施されたテイン・セイン現政権(11年3月発足)の「第1次」内閣改造で副国家計画・経済開発相から現職に昇格。2014年8月に首都ネピドーで開かれた第46回ASEAN経済大臣会合・関連会合では議長を務めた。13年2月の訪日時に岸田外相との間で、ティラワ経済特別区(SEZ)の15年開業に向けた開発と投資環境整備のために日本・ミャンマー両国が官民を挙げて取り組んでいくことに合意。所管部局は、計画局、対外経済関係局、投資・企業監督局、事業査定・進捗状況報告局など。

*マクロ経済学、経済政策分析、地域・都市開発を専門にする経済学者で元ヤンゴン経済大学(YIE)学長。現政権でも数少ない「非退役軍人」閣僚の一人。日本の「アジア経済研究所」で客員研究員を務めた経歴もある。

▼データ：【年齢】60歳(1954年10月11日生まれ)【民族】ビルマ族【宗教】上座部仏教【学歴】ヤンゴン経済大学(YIE)卒(経済学)/(オランダ・ハーグ)経済学修士(RDP：地域開発計画)/[1992年](名古屋)RDP学位(国連地域開発センター〔UNCRD〕研修課程)/(ヤンゴン)文学博士(D. Litt.)【経歴】ヤンゴン経済大学(YIE)経済学部部長(教授)/YIE学長/[2011年3月30日](テイン・セイン政権)副国家計画・経済開発相/[12年9月7日](内閣改造)国家計画・経済開発相(昇格：一現在)【歴任】[1996年4月~12月](日本)アジア経済研究所(IDE-JETRO)客員研究員【家族】既婚

■通信・情報技術相

Minister for Communications and Information Technology

ミャツ・ヘイン U Myat Hein



テイン・セイン大統領が2013年2月に実施した小規模な内閣改造人事で現職(通信・情報技術相)に起用された。前空軍司令官(退役空軍大将)。携帯電話の急速な普及・拡大などの通信事業を管理する。所管部局は、情報通信局、移動通信局、郵便・電信公社(MPT)など。

*大将(空軍)の階級にあった軍高官が首相ではなく1閣僚に任命されるのは、1988年の旧・軍事政権成立以降では初めて(軍事政権の国家元首だったタン・シュエ上級大将が国防相を兼任していた「例外」があるが)。前任者のテイン・タウン氏は、巨大な利権が絡む通信・情報技術省内での大規模な汚職疑惑の責任を問われ「辞任を許可」(実質的な罷免)された。

▼データ：【年齢】59歳(1955年4月27日生まれ)【生地】バゴ地域【民族】ビルマ族【宗教】上座部仏教【学歴】国軍士官学校(DSA)卒(理学士)/国防大学卒(軍事学修士)【軍歴】退役空軍大将【経歴】[1976年] DSA卒業後、少尉に任官/空軍各部隊に勤務/[2001年] 空軍参謀長/[03年] 空軍司令官/[13年2月13日](テイン・セイン政権)通信・情報技術相(一現在)

■エネルギー相 Minister for Energy

ゼイヤー・アウン U Zeyar Aung



2012年9月の「第1次」内閣改造で国軍を退役(元北部軍管区司令官)して鉄道輸送相に就任したが、1年も経ずに重要閣僚ポストである現職(エネルギー相)にポスト替えとなった。エネルギー省はエネルギー計画局(EPD)、ミャンマー石油ガス公社(MOGE)、ミャンマー石油化学公社(MPE)、ミャンマー石油製品公社(MPPE)などを所管。

*2014年8月に情報相(兼大統領報道官)に任命されたイエ・トゥツ氏(U Ye Htut)の義弟。

▼データ：【年齢】57歳(1958年生まれ)【民族】ビルマ族【宗教】上座部仏教【学歴】[1980年] 国軍士官学校(DSA)卒(第22期生：理学士)/国防大学卒(第7期生：軍事学修士)【軍歴】退役少将【経歴】[1980年] DSA卒業後、少尉に任官/陸軍各部隊に勤務/東部軍管区作戦部長/第88軽歩兵師団(LID)師団長(マグウェー地域)/国軍士官学校(DSA)校長/地域統制司令部司令官(ピンウールウィン)/[2010年8月] 北部軍管区司令官(少将)/[12年9月7日](テイン・セイン改造内閣)鉄道輸送相(国軍退役)/[13年7月25日] エネルギー相(一現在)

■電力相 Minister for Electric Power

キン・マウン・ソー U Khin Maung Soe



2011年3月発足のテイン・セイン現政権で第2電力相に就任したが、12年9月の「第1次」内閣改造で第1、第2電力省が「電力省」に統合されたことに伴い現職に就任(ゾー・ミン前第1電力相は「辞任を許可」された)。発電事業などの文字通りの統括責任者となった。電力局、水力発電計画局、ミャンマー電力公社、電力供給公社、水力発電公社などを所管。

*旧・軍事政権下の2002年に特務将校として電力省に「出向」して以来、国軍内の電力事業専門家となった。10年11月総選挙では、現与党「連邦団結発展党(USDP)」から国民代表院(下院)議員に当選(政府入りに伴い議員資格は喪失)。

▼データ：【年齢】64歳(1950年12月25日生まれ)【生地】ヤンゴン地域フレーグー【民族】ビルマ族【宗教】上座部仏教【学歴】ヤンゴン大学卒(理学士：物理学)/国軍幹部候補生学校(OTS)卒【軍歴】退役大佐【経歴】[1974年] OTS卒業後、少尉に任官/陸軍各部隊・部隊で勤務/[1992年] 第387軽歩兵連隊(LIR)連隊長/[95年] 東部軍管区作戦部長/[2001年] ヤンゴン軍管区作戦部長/[02年] 電力省付き特務将校(ヤンゴン管区)/[06年] ヤンゴン電力供給委員会委員長/[10年11月総選挙] 国民代表院議員に当選(ヤンゴン地域フレーグー選挙区：USDP)(-11年3月)/[11年3月30日] 第2電力相/[12年9月7日] 電力相(一現在)【家族】ニー・ニー(Daw Ni Ni)夫人との間に3男3女

■工業相 Minister for Industry

マウン・ミン U Maung Myint



2012年9月の「第1次」内閣改造で労働・雇用・社会保障相として初入閣したが、(上述のゼイヤー・アウン・エネルギー相同様に)1年も経ずに重要閣僚ポストである現職(工業相)に異動となった。3つの重工業公社(HIE-1、HIE-2、HIE-3)、繊維公社、薬品・食品公社、製紙・家庭用品公社のほか、工業省本省の工業計画局、国際関係局、財務局などを所管。

*軍事政権下の2004年から8年間におよび副外相を務めた実力者。

▼データ：【年齢】56歳(1958年5月21日生まれ)【民族】ビルマ族【宗教】上座部仏教【生地】ザガイン地域ミンギン【学歴】[1979年] 国軍士官学校(DSA)卒(第21期生：理学士)/[99年] 指揮幕僚学校修了/[2003年] 国防大学卒(軍事学修士)【軍歴】退役大佐【経歴】[1979年] DSA卒業後、少尉に任官/陸軍各部隊に勤務/[95年] 第377軽歩兵大隊(LIR)大隊長/[99年] 陸軍司令部1級参謀(計画担当)/[2000年] 戦術作戦司令部司令官/[03年] 第77軽歩兵師団(LID)師団長(大佐)/[04年9月] (軍事政権)副外相(国軍退役)/[10年11月総選挙] 国民代表院議員に当選(USDP：ザガイン地域ミンギン選挙区)(-11年3月)/[11年3月30日] (テイン・セイン政権)副外相(再任)/[12年9月7日] (改造内閣)労働相、[11月1日] (省名変更に伴い)労働・雇用・社会保障相/[13年7月25日] 工業相(一現在)【趣味】読書、ゴルフ、テニス【家族】キン・ミヤ・ウィン(Khin Mya Win)夫人との間に2女

■鉱業相 Minister for Mines

ミン・アウン(博士) Dr Myint Aung



2011年3月のテイン・セイン政権発足時から現職(工業相)。鉱物資源の開発を巡っては、土地の強制接収や環境破壊などを巡って地元住民や環境・人権保護団体などの反対運動が発生したり、少数民族組織との対立・紛争の原因にもなりやすいため、現職は「国防・治安関連閣僚」の側面を持っている。鉱山局、地質調査・鉱物探査局、第1・第2・第3各鉱業公社、宝石公社、真珠公社、塩・海洋化学資源公社などを所管。

*前国家公務員任用委員会委員。元国軍士官学校教官。

▼データ：【年齢】69歳(1946年1月13日生まれ)【生地】マンダレー地域シンダー【民族】ビルマ族【宗教】上座部仏教【学歴】国軍士官学校(DSA)卒(理学士)/理学修士(数学)/理学博士(D.Sc.)【軍歴】退役大佐【経歴】DSA卒業後、少尉に任官/第16ミャンマー連隊(ピンマナ)、第2ミャンマー連隊(テインザヤ)で勤務/DSA学科長(文学：大佐)/[2010年11月総選挙] 国民代表院議員に当選(マンダレー地域ピンウールウィン選挙区：USDP)(-12年9月)/[11年3月30日] 国家公務員任用委員会委員/[12年9月7日] (テイン・セイン改造内閣)鉱業相(一現在)

■財務・歳入相 Minister for Finance and Revenue

ウィン・シェイン U Win Shein



駐カンボジア大使、副運輸相、副財務・歳入相を経て現職(財務・歳入相)。現職の前任者はフラー・トゥン(U Hla Tun)現第6大統領府相。

*元海軍准将。各種艦船の艦長などを歴任。

▼データ：【年齢】57歳(1957年7月31日生まれ)【民族】ビルマ族【宗教】上座部仏教【学歴】[1977年] 国軍士官学校(DSA)卒(第19期生：理学士)/国防大学卒(軍事学修士)【軍歴】退役海軍准将【経歴】DSA卒業後、海軍少尉に任官/海軍司令

部・各基地参謀や各種艦船の艦長などを歴任(海軍准将)/[2009年3月] 駐カンボジア特命全権大使/[11年3月30日] (テイン・セイン政権)副運輸相/[12年7月9日] (副大臣改造人事)副財務・歳入相、[9月7日] (改造内閣)財務・歳入相(昇格：一現在)

■商業相 Minister for Commerce

ウィン・ミン U Win Myint



2011年3月のテイン・セイン政権発足時に就任した閣僚(30人)中で元軍人ではない4人のうちの1人。10年11月の総選挙で民族院議員に当選した実業家(入閣に伴い議員資格は喪失)。

*ヤンゴン地域だけで数カ所の精米所を保有するコメ・パーム油輸出大手「シュエ・ナガー・ミン社」を創業し、同社を中心とする事業グループの総帥。「ミャンマーの米価をコントロールする男」との異名もある。旧・軍事政権「国家平和発展評議会(SPDC)」のタン・シュエ元議長(退役上級大将)一家と親密な関係を維持し、相当数の国軍将官が同グループに「投資」してきたとされる。

▼データ：【年齢】60歳(1954年4月21日生まれ)【生地】ザガイン地域イェウ【学歴】第10学年修了(高卒)【経歴】[1988年] コメ輸出会社「Joint Venture 3」創業/コメ・パーム油輸出大手「Shwe Nagar Min」創業者・総帥/ミャンマー連邦商工会議所(UMFCCI)会頭/[2010年11月総選挙] 民族代表院(上院)議員に当選(ヤンゴン管区：USDP)(-11年3月30日)/[11年3月30日] 商業相(一現在)【活動】「ゼヤシュエミエ(Zeyashwemye)」サッカークラブ(F.C.)オーナー

■運輸相 Minister for Transport

ニャン・トゥン・アウン U Nyan Tun Aung



旧・軍事政権下では副運輸相だったが、2011年3月のテイン・セイン現政権発足時に現職に昇格。

*空軍参謀時代に運輸省に「転出」した元大佐。副運輸相時代に国際協力機構(JICA)プロジェクトである「ヤンゴン港内陸水運施設改修調査」における運営委員長を務めた。

▼データ：【年齢】66歳(1948年6月8日生まれ)【生地】マンダレー地域ナトージー【学歴】[1969年] 国軍士官学校(DSA)卒(理学士：第11期)/[88年] 空軍指揮幕僚大学卒【軍歴】元空軍大佐【経歴】[1969年] ミャンマー空軍に入隊(少尉に任官)後、各部隊に勤務/国軍司令部空軍主任参謀(大佐)/[98年] 運輸省に転出、運輸局副局長/[99年] 同局長/[2003年] 副運輸相/[2010年5月] 国軍を退役、[11月] 総選挙で国民代表院議員に当選(ナトージー選挙区)(-11年3月)/[2011年3月30日] (テイン・セイン政権)運輸相(一現在)【家族】既婚。1男3女

■建設相 Minister for Construction

チョー・ルイン U Kyaw Lwin



副建設相から昇格。元建設省技監。公共事業局、定住・住宅開発局などを所管。

▼データ：【年齢】68歳(1947年2月27日生まれ)【生地】エーヤワディ地域ミャウンミヤ【民族】ビルマ族【宗教】上座部仏教【学歴】[1971年] ヤンゴン工科大学卒(工学士：土木工学)【経歴】建設省公共事業局技監/[2011年3月30日] (テイン・セイン政権)副建設相/[12年9月7日] (改造内閣)建設相(昇格：一現在)

(アジア・リンケージ 勝田 悟)